

# ココシリ

「ここが知りたい」  
国際協力に関する  
いろんなトピックを  
分かりやすく解説します！

ODA政策

「日本再興戦略とODA」

## 途上国とつながり 日本も世界も元気に！



ケニアで日本が整備を支援するオルカリア地熱発電所。地熱開発では世界最先端の技術を持つ日本がアフリカの家庭に光を届ける



バングラデシュでBOPビジネスを展開する日本ベーシック株式会社。自転車を使った浄水器という斬新なアイデアは、停電の多い現地のニーズを的確に捉えたもの(撮影:鈴木華)

### アベノミクスの「三本の矢」とは？

- ①大胆な金融政策
  - ②機動的な財政政策
  - ③民間投資を喚起する成長戦略
- 「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」  
=ODAを活用した日本経済の再生！

### 開

発途上国の貧困削減や経済発展を後押しする政府開発援助(ODA)。しかし、その舞台は途上国だけではない。今、日本の経済再生のツールとして注目を集めているのだ。安倍晋三内閣総理大臣が提唱する「アベノミクス」の3本の矢の一つ「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」や「平成25年度国際協力重点方針」でも、ODAを日本企業のインフラ輸出の拡大や中小企業の海外展開支援に活用する方針が示されている。

その一つが、インフラシステム輸出だ。「日本再興戦略」が掲げる3つのアクション・プラン(行動計画)のうち、国際市場を獲得するための「国際展開戦略」は、新興国の成長を取り込んで日本経済の活性化につなげるため、日本の優れた技術・ノウハウを提供する

など、経済協力を戦略的に活用するとしている。

また、インフラといっても、従来よく知られている高速鉄道や港湾といった分野だけでなく、地上デジタル放送や防災、地熱発電、さらには病院の運営管理など、日本の強みを生かせる幅広い分野をODAを活用したインフラ輸出の対象とするとしている。

例えば地熱発電では、インドネシア国内での5つの地熱発電計画を対象に、「地熱開発促進プログラム」の第一期として、552・99億円を限度とする円借款、ケニアに対しては「オルカリアI4・5号機地熱発電事業」に対して295・16億円を限度とする円借款を供与。地熱資源が豊富な中南米でも調査などの事業を実施しており、今後はプロジェクトの早期段階から技術協力

や無償資金協力も活用して相手国政府と連携し、日本企業の進出を後押しするとしている。

インフラ以外では、中小企業の海外展開支援でもODAに期待がかかる。外務省では、平成24年度から本格的な支援を展開。多くの企業にとってノウハウや人材の不足が壁となっていることから、途上国での「ニーズ調査」、現地での事業展開に向けた「案件化調査」、優れた製品・技術の普及を目指す「民間提案型普及・実証事業」など、それぞれ事業段階に応じて選択可能なメニューを用意した。

これらを活用した調査やパイロット事業を経て、簡易浄水器による飲料水の供給、廃棄物処理によるリサイクルの推進、精密技術の普及、産業の生産性と品質の向上を目的とした産業自動

### 安

倍晋三内閣総理大臣は8月24日、バーレーン、クウェート、カタール、ジブチを訪問し、各国の要人と会談を行った。

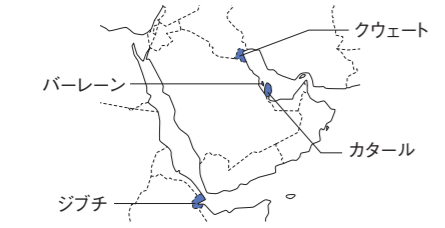
今回の訪問の狙いの一つは、日本と中東諸国との「安定と繁栄に向けた包括的パートナーシップ」の一層の強化と拡大だ。安倍総理は各国での会談において、東日本大震災後にそれぞれの政府と市民から寄せられた温かい支援に感謝の意を表明。今後は、従来の資源・エネルギーという枠を超えて、より幅広い協力を推進していきたいとの考えを示した。具体的には、政治・安全保障分野での関係強化、経済関係の拡大・深化、教育、文化・人的交流の分野での協力強化で一致。その一例として、バーレーン、クウェートでは、新たに「コスト・シェア技術協力」の実施を検討するとしている。

ODA政策

## 「安倍総理の中東訪問」 安定と繁栄に向けた 包括的パートナーシップの強化

日本は今後、成長著しい中東地域の活力を取り込むことで、経済的、政治的にも同地域で一層積極的な役割を果たしていくことが期待されている。安倍総理は今年5月にもサウジアラビア、アラブ首長国連邦、トルコを訪問。今後も同地域との連携をより強化していく方針を示している。

また、ODA対象国であるジブチでは、日本の無償資金協力で建設された「フクザワ中学校」に「安倍文庫」として図書104冊を寄贈。また、海賊対策の一環として設置されている自衛隊の活動拠点を訪問し、隊員たちを激励した。ケレ大統領との会談では、「第5回アフリカ開発会議(TICAD V)」で表明したアフリカ支援策を着実に実施していくとともに、同国が強化しているインフラ整備などへの支援を継続していくことを約束した。



**バーレーン**  
首都：マナーマ市  
面積：762.3km<sup>2</sup> (東京23区と川崎市を併せた面積とほぼ同じ)  
人口：約123.5万人

**クウェート**  
首都：クウェート  
面積：1万7,818km<sup>2</sup> (四国とほぼ同じ)  
人口：約325万人

**カタール**  
首都：ドーハ  
面積：1万1,427km<sup>2</sup> (秋田県よりもやや狭い)  
人口：約191.6万人

**ジブチ**  
首都：ジブチ  
面積：2万3,200km<sup>2</sup> (四国の約1.3倍)  
人口：約90万人

### コスト・シェア技術協力とは？

ODA卒業国・移行国を対象に、先方政府に必要な経費を可能な限り負担させる有償の技術協力(サウジアラビア、オマーンではコスト・シェア技術協力の前身である有償技術協力を実施中)。

### 来

年は「日・カリブ交流年2014」4「カリブ海周辺の14カ国、1地域が加盟するカリブ共同体(カリコム・CARICOM)と日本の間で、さまざまな記念事業が計画されている。

カリコムとは、域内の経済統合を目指すとともに、加盟国間の外交政策の調整、共通のサービス事業実施、社会的・文化的・技術発展のための協力などを進めている組織。カリコム諸国は、民主主義という共通の価値観を日本と共有しており、さらに島国が多く、自然災害の影響を受けやすいなどの共通の課題に直面していることから、環境・防災分野においても日本の重要なパートナーとなっている。

2014年は原則毎年実施されている「日・カリコム事務レベル協議」が始まって20年、ジャマイカ、トリニダード・トバゴとの国交樹立50周年にも当

交流年

## 「日・カリブ交流年 2014」 カリコム諸国について知ろう！

たる節目の年だ。これを記念して、カリコム諸国との交流をより深めることを目的に、双方での協議を経て「日・カリブ交流年2014」が設定された。そして、7月にガイアナで行われた「日・カリコム事務レベル協議」において「日・カリブ交流年2014」のロゴマークが決定。日本、カリコム諸国などからの98点の応募作品の中から、ガイアナ在住のガネシュ・ソムラ氏作品が選ばれた。日本の象徴の一つともいえる折り紙の鶴とカリコム諸国でよく見られるヘリコニア(熱帯植物)の花のハイモニーとパートナーシップを示したデザインになっている。

2014年の行事については、決定したもののから外務省のホームページ(www.mofa.go.jp)で順次公開予定。これを機に、カリコム諸国について調べてみては？

